

第12回日本語教育学会奨励賞

受賞者

李 在鎬氏

【授賞理由】

李在鎬氏は、認知言語学、コーパス言語学、第二言語教育などを専門領域とし、以下のような複数領域に跨る優れた功績を残されています。まず、単著『認知言語学への誘い—意味と文法の世界—』（2010年、開拓社）、単著『コーパス分析に基づく認知言語学的構文研究』（2011年、ひつじ書房）を出版されています。そして、共著『日本語教育のためのコーパス調査入門』（2012年、くろしお出版）は、日本語教育研究者や教師にワークショップ等を通して広く活用され、コーパスの利用を身近なものとすることに貢献されました。

上記の出版物以外に、単著「大規模テストの読解問題作成過程へのコーパス利用の可能性」（2011年、『日本語教育』148号）、共著「学習者コーパスと言語テスト—言語テストの得点と作文のテキスト情報量の関連性—」（2013年、『言語教育評価研究（AELE）』第3号、国際交流基金）など、言語テストへのコーパス利用に関する先駆的な論文を発表しております。

これらの出版物や論文の発表だけでなく、認知言語学の視点から日本語教育のあり方を探究し続けている李氏は、多くの日本語教育関係者が参画する、TTBJ（筑波日本語テスト集）、J-CAT（インターネットによる日本語能力自動判定テスト）などの拡充に携わり、両者の相関関係を調査する研究にも関わりました。また、2013年開設の「日本語文章難易度判定システム」構築においても重要な役割を果たしておられます。さらに、そうしたシステム構築の過程で得られた知見を、諸学会で発表し、普及に努めてこられ、これらは日本語教育の現場で活用、評価されています。

また、上記で述べましたように李氏は、本学会における貢献だけでなく、関連した領域・分野の諸学会で、日本語教育の理解促進に向けた多様な役割も果たしておられます。さらに、海外とのネットワークの充実に向けても、例えば2012年8月には、日本語教育支援システム研究会（CASTEL/J）が主催した「日本語教育とコンピュータ」国際会議（CASTEL/J in Nagoya）の開催において、プロジェクト会議メンバーとしての大きな役割を果たすなど、日本語教育の国際的な交流、発展にも寄与されてきています。

以上のように、李氏は、多くの研究プロジェクトやシステム構築・運営に、多様な領域・分野の研究者等とともに国内外を超えて取り組んでいます。

ここにその功績を称えるとともに、今後のさらなる活躍、貢献を期待して、日本語教育学会奨励賞を贈ります。